

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

TOP コレクション 時間旅行

2024/2/16

—— 千二百箇月の過去とかんずる方角から

TOP Collection: A Traveler from 1200 Months in the Past

2024年4月4日(木)ー7月7日(日) 3階展示室



黒岩保美

《D51 488 山手貨物線（恵比寿）》

1953年

ゼラチン・シルバー・プリント

本展覧会は「時間旅行」をテーマとする東京都写真美術館のコレクション展です。人が様々な時代を自由に旅する「時間旅行」という発想は昔からよく知られたSF的なファンタジーですが、想像の世界や芸術の領域では、人は誰でも時間と空間の常識を飛び越えることが可能なのではないでしょうか。

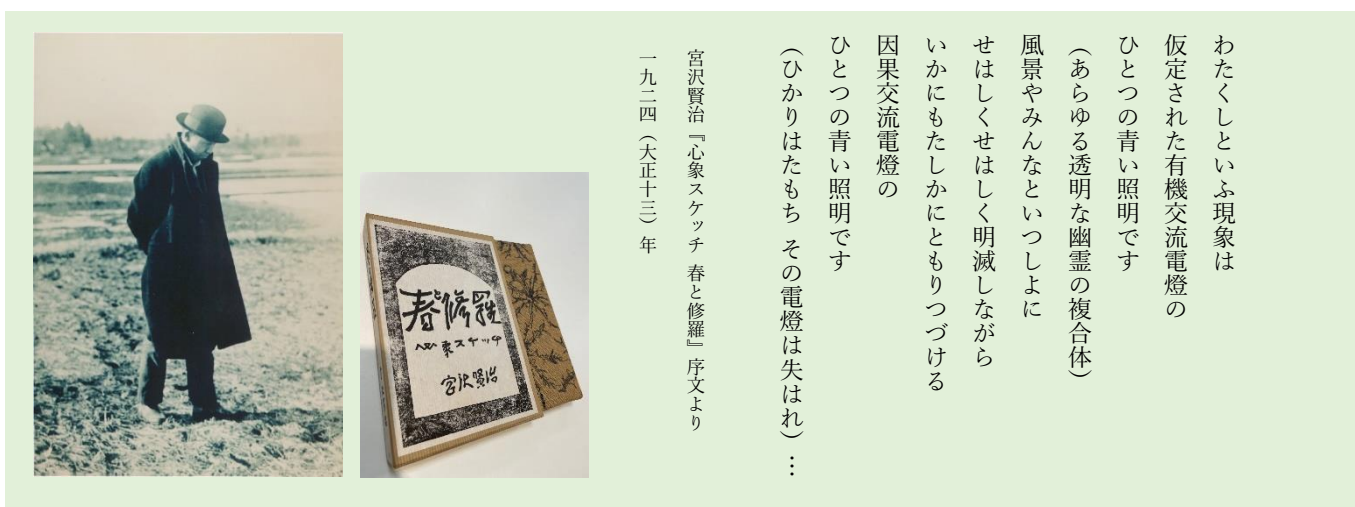
詩人で童話作家の宮沢賢治が1924（大正13）年に刊行した『心象スケッチ 春と修羅』では、宇宙的なスケールの時間感覚の中で「わたくし」の心象、言葉で記録された風景、そして森羅万象とがひとつに重なりあったような「第四次延長」という世界が描かれます。その世界観は当時の最先端の科学や思想から影響を受けた宮沢賢治の想像力が生み出したものです。しかし百年前の詩人の言葉とそれを生み出した想像力には、現代という分断の時代を生きる私たちの心にも響く何かがきっとあるはずです。

本展は百年前である1924年を出発点として、「1924年-大正13年」「昭和モダン街」「かつて、ここで」「20世紀の旅」「時空の旅」の5つのセクションに分け、37,000点*を超える当館収蔵の写真・映像作品、資料を中心にご紹介します。「時間旅行」をテーマとする本展で鑑賞者は、それぞれの時代、それぞれの場所で紡ぎ出される物語と出会うことができるでしょう。また、本展は宮沢賢治による『春と修羅』序文の言葉をひとつの手掛かりとして、戦前、戦後そして現代を想像力によってつなぐ旅でもあります。写真と映像による時空を超えた旅を、どうぞお楽しみください。（*2023年3月末時点）

本展のみどころ

詩人・宮沢賢治の視点で「^{せんひやくかげつ}千二百箇月」を駆け抜ける時間旅行

令和6年度最初のTOPコレクション展（収蔵展）は「時間旅行」をテーマに、当館の収蔵作品を中心に写真・映像作品等の魅力を紹介しします。本展の副題「千二百箇月の過去とかんずる方角から」は、今から100年前に刊行された、詩人・童話作家、宮沢賢治の『心象スケッチ 春と修羅』（1924 [大正13]年）の序文に由来します。本展の着想点となった、宮沢賢治の宇宙的なスケールの時間感覚を内包する言葉に導かれながら、過去と現在が交錯する時間旅行をお楽しみください。



左) 宮沢賢治の肖像写真（立像）1924年頃 画像協力：林風舎 右) 宮沢賢治『春と修羅』復刻版 個人蔵

過去と現在をつなぐ旅を彩るコラボレーション

本展のキーワードとなる「100年前の世界」を多層的に体感していただくため、多彩なコラボレーションが実現しました。本展は、宮沢賢治が生きた時代と共鳴しながら、当館の収蔵作品に加え、国立工芸館、東京都江戸東京博物館からの作品資料借用、サッポロビール株式会社の画像協力により、大正時代から昭和初期に制作された作品および資料を紹介しします。また、現在の東京都写真美術館一帯が、かつてビール工場であった歴史*を振り返り、過去と現在を迫体験できるコーナーを設けます。恵比寿ガーデンプレイス開業30周年を迎える今年、当館が「エビスビール」とともに歩んだ歴史にも、どうぞ注目ください。

*1889（明治22）年から昭和の終わりまで、東京都写真美術館および恵比寿ガーデンプレイス（現・目黒区三田、旧住所・東京府下荏原三田村）はビール工場があった。駅名の「恵比寿」は、このビール工場の代表銘柄「エビスビール」に由来している。

写真・映像の名品にであう、令和6年度「TOPコレクション」

「TOPコレクション」（収蔵作品展）は、当館の写真・映像コレクションを中心に、写真・映像作品への理解を深め、時代を超えて語り継がれる優れた写真・映像作品を紹介する場として、当館が長年大切にしてきた展覧会です。多様なテーマで収蔵品を紹介するこのシリーズは、企画を担当するキュレーターの専門性と個性が際立つ企画展のひとつです。令和6年度は、「時間旅行」（石田哲朗学芸員）、「見るといふこと（仮称）」（山田裕理学芸員）の2本のTOPコレクションにご期待ください。

本展の構成と主な出品作品

記載のない図版はすべて東京都写真美術館蔵

第一室 1924年—大正13年

時間旅行の出発点は、ちょうど百年前の1924（大正13）年。当館コレクションより、この年に制作・発表された写真作品を紹介しします。日本では大正時代の終わり頃、時代の移り変わりの中で、作家たちは新たな芸術の姿を模索していました。百年前の「ピクトリアリズム（絵画主義）」の写真作品や当時の前衛芸術を通して、懐かしさや古い情緒とモダンな表現が入り混じった当時の時代相が見えてきます。宮沢賢治はこの年、生前唯一の詩集である『心象スケッチ 春と修羅』を自費出版しました。

【出品作家】小川月舟、高山正隆、福森白洋、ラースロー・モホイ＝ナジ、宮沢賢治、マン・レイ ほか



01_01



01_02

01_01

吉川富三

《女の顔》1924年 ゴム印画

01_02

ヤロスラフ・レスラー

《器のある静物、プラハ》1924年

ゼラチン・シルバー・プリント

第二室 昭和モダン街

大久保好六、桑原甲子雄が撮影した1930年代の東京の街と道行く人々の活気ある姿、堀野正雄らの手がけた1930年代の広告写真、そして国立工芸館と東京都江戸東京博物館の所蔵品より当時の東京の街角を彩っていた広告ポスターの競演。杉浦非水による昭和初期のモダン・デザインも見どころです。

【出品作家、出品作品】大久保好六、桑原甲子雄、杉浦非水、中山岩太、福原路草、堀野正雄 ほか



2_01



02_02

02_01

桑原甲子雄

《（地下鉄入口）》1930-39年

ゼラチン・シルバー・プリント

02_02

杉浦非水

《帝都復興と東京地下鉄道》1929年頃

リトグラフ、オフセット・ポスター

国立工芸館蔵

第三室 かつてここで―「エビスビール」の記憶

現在、東京都写真美術館が建っている土地の記憶に思いを馳せます。1889（明治22）年、東京府下荏原三田村（現・目黒区三田）に日本麦酒醸造株式会社がビール工場を設立。翌1890（明治23）年に「恵比寿ビール」を発売しました。現在の「恵比寿」の地名はビールの銘柄に由来しています。ビール醸造所だった、かつてのこの場所の姿を記録写真、明治・大正、昭和初期の広告ポスターで紹介します。当館コレクションからは、ビール工場が現役で稼働していた当時を伝える黒岩保美の鉄道写真、さらに1990（平成2）年に工場が解体されていく姿を捉えた宮本隆司のシリーズ〈建築の黙示録〉より《サッポロビール恵比寿工場》を併せて展示します。

【出品作家、出品作品】「エビスビール」関連資料、黒岩保美、宮本隆司



03_01

《サッポロビール・リボンシトロン ポスター》
1927年頃 画像協力：サッポロビール株式会社



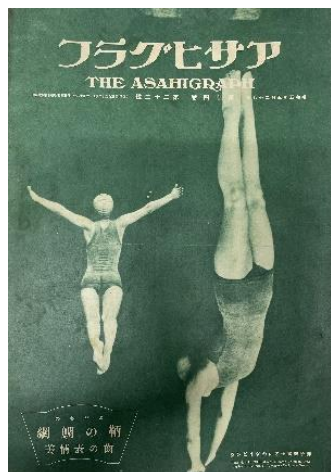
03_02

宮本隆司《サッポロビール恵比寿工場》〈建築の黙示録〉より
1990年 ゼラチン・シルバー・プリント

第四室 20世紀の旅―グラフ雑誌に見る時代相

当館の図書室蔵書より、戦前から戦後までの雑誌『LIFE』『アサヒグラフ』のバックナンバーを選び、20世紀という時代の変遷をたどる表紙グラビアをご紹介します。またこれと関連して、グラフジャーナリズムを代表する写真家W.ユージン・スミス、大東元による作品をオリジナル・プリントによって展示します。

【出品作家、出品作品】大東元、W.ユージン・スミス、雑誌『LIFE』、雑誌『アサヒグラフ』ほか



04-01



04-02

04_01

雑誌『アサヒグラフ』1930年5月28日号表紙

04_02

大東元

《夜空の構成 数寄屋橋にて》
1958年

ゼラチン・シルバー・プリント

第五室 時空の旅—しんせいだいちゅうせきせい 新生代沖積世

歴史の堆積と時を超えて息づく過去から来た「光」の軌跡。宮沢賢治の言葉にインスパイアされた、時間と空間の多層的な世界を形にしたセクションです。100年前の幻燈写真や長時間露光による写真作品、マルチ・プロジェクションによる映像作品、移動する人々のスナップショット。「想像力」「過去からの光」「移動」を感じさせる20世紀と現代の作品たちが「時空の旅」を彩ります。

【出品作家】岩根愛、川田喜久治、北野謙、木村専一コレクション、佐藤時啓、高木庭次郎、原美樹子、宮沢賢治 ほか



05_01

高木庭次郎〈日本風景風俗100選〉より
1910-23年 ガラス・スライドに手彩色



05_02

北野謙〈光を集める〉より《香川県土庄町 小豆島 千年樹
2017年冬至-2018年夏至》2017-18年
インクジェット・プリント 作家蔵

関連事業

□ 担当学芸員によるギャラリートーク

4月26日（金）14:00-

5月24日（金）、6月21日（金）いずれも14:00- [手話通訳付き]

このほか会期中に関連事業を開催予定です。詳細が決定次第ウェブサイト等でお知らせいたします。

開催概要

展覧会名（和） | TOP コレクション 時間旅行—千二百箇月の過去とかんずる方角から

展覧会名（英） | TOP Collection: A Traveler from 1200 Months in the Past

会期 | 2024年4月4日（木）-7月7日（日）83日間

会場 | 東京都写真美術館 3階展示室

主催 | 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

電話 | 03-3280-0099 WEB | www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00（木・金曜日は20:00まで、入館は閉館30分前まで）

休館日 | 毎週月曜日（ただし4/29（月）、5/6（月）は開館。5/7（火）は休館）

観覧料 | 一般700円、学生560円、中高生・65歳以上350円

*小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者（2名まで）は無料。

* オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

* 本展はやむを得ない事情により内容を変更する場合があります。

展覧会企画 | 石田哲朗 (東京都写真美術館 事業企画課)

* 主な企画展「川内倫子 照度 あめつち 影を見る」(2012)、「山崎博 計画と偶然」(2017)、「内藤正敏 異界出現」(2018)、「あしたのひかり 日本の新進作 vol.17」(2020)、「野口里佳 不思議な力」(2022) ほか

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよび和英いずれかクレジットの表記をお願いします。

* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺 800~1000 ピクセル以下をご利用ください。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

東京都写真美術館 管理課 企画広報係 press-info@topmuseum.jp